





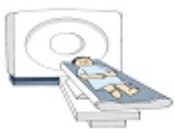
検査項目	検査項目の意味	
18  肺機能検査	実測肺活量	息をいっぱい吸って吐き出すことで肺の大きさを調べます
	%肺活量	肺活量を基準値と比較した割合
	1秒率	息をいっぱい吸って出来るだけ勢よく吐き出すことで気道の状態を調べます
	%1秒量	1秒率を基準値と比較した割合
	肺年齢	結果値から割り出した年齢
拘束性の疾患 肺線維症・間質性肺炎・肺水腫・気胸・胸膜肥厚・胸部変形 閉塞性の疾患 気管、気管支狭窄・気管支喘息・慢性気管支炎・び慢性汎細気管支炎・COPD（慢性閉塞性肺疾患） 混合性の疾患 肺結核後遺症・塵肺・気管支拡張症・び慢性汎細気管支炎・肺気腫・COPD（慢性閉塞性肺疾患）		

19  腹部超音波検査	各臓器の大きさや形、あるいは腫瘤などがいないかを調べるもので人体への影響はありません。 脾臓・膵臓については条件によって（脂肪・腸内ガス等）見えない場合があります。 胆嚢結石、胆嚢ポリープ、脂肪肝などがよく見られます。 肝嚢胞、腎嚢胞、胆嚢ポリープ、肝血管腫、胆嚢腺筋腫症などは良性なので通常は特に心配いりませんが、経過観察が必要な場合もあります。
---	---

20  上部消化管検査 （食道・胃・十二指腸）	胃透視	バリウムを飲みX線撮影することで、食道・胃・十二指腸の全体を写し出します。不自然なひきつれ、胃や十二指腸のふくらみ具合、病変の位置・形・広がり状態がわかります。 X線検査で病気があるのではないかと疑われた場合には内視鏡検査で詳しく調べます。 二次検査を勧められた方は必ず検査を受けて下さい。
	内視鏡	胃内部の潰瘍やポリープ、出血やただれなどの様子がわかります。また粘膜組織を切除して検査にまわし、良性・悪性の診断も行います。さらに超音波内視鏡を用いれば、粘膜下層のがん組織の深さなどを調べることができます。 胃炎、食道・胃・十二指腸など上部消化管のがん、潰瘍、ポリープなどを見つけることができます。

21  心電図検査	血液は心房から心室を通して体全身に送られます。 心電図にあらわれる波形は、心房から心室までの収縮運動1回分をひと山として折れ線グラフに表したものです。 不整脈、狭心症、心筋梗塞、心筋症、心室肥大などがわかります。
---	--

22 血管検査（ABI）	脈波の伝播速度と上腕および足首の血圧比を測り、主に大血管の硬さの程度を調べます。 足の血管の詰まり具合がわかります。
-----------------	---

23  胸部CT	肺内部の細かく枝分かれする肺葉や気管支など、呼吸器の細部をらせん状に連続した断層写真としてとらえることができます。 胸部X線撮影では指摘困難な部位の病変や微細な病変を発見します。 また、血栓や梗塞があるかなど血管のようすも鮮明に写し出されます。 これまでに肺の病気を指摘されている方や喫煙者では毎年実施することをお勧めします。 肺がん、肺結核、肺炎、気管支炎などを見つけることができます。
--	--